

◆みょうが畑が学校地に変わる話し

△現に早稲田では、茗荷畑の神明様と言つて徳川以前から土地の鎮守であつた社の境内を、約四分の三程削つて、社殿は片隅に引据ゑ、其處に早稲田実業学校を建築し始めてゐる、對手が實業学校だから癪に障る、土地の者も土地の者で平氣所か却て喜んで居るとは情無い。(右京亮)

1906年11月27日 朝日新聞 東京／朝刊 3頁 7段 記事

△現に早稲田では、茗荷(みょうが)畑の神明様(しんめいさま)と言つて徳川以前から土地の鎮守(ちんじゆ)であつた社(やし)の境内を、約四分の三程(ほど)削つて、社殿は片隅に引据(ひきす)え、其處(そこ)に早稲田実業学校を建築し始めてゐる、對手(あひて)が実業学校だから癪(しゃく)に障(さは)る、土地の者も土地の者で平氣所(どころ)か却つて喜んで居るとは情(なさけ)無い。(右京亮)

~~~~~ \* ~~~~~ \* ~~~~~ \* ~~~~~

みょうが畑にある神社の境内を削つて学校をつくつた話し  
神明神社(現在の天祖神社・早稲田鶴巻町530)の土地を削つて早稲田実業(移転して跡地は現在早稲田大学研究開発センター)の建物をつくることを新聞記者が嘆いています。

◆みょうがの生産地が移る話し

△牛込の山吹町邊の通称茗荷畑と稱へるほどで茗荷時に一年中の費用を取込む程であつたが近年市区改正と家賃騰貴の爲め山の手の奥へ逃込む者が多くなつたので茗荷畑とい名のみ跡に家屋が建てられた爲め茗荷畑底となり近來は新宿管内から早稲田茗荷と稱へて出してゐる

1901年6月23日 朝日新聞 朝刊 5頁 東京 2段 記事

△牛込の山吹町邊は通称茗荷畑と稱えるほどで茗荷時に一年中の費用を取り込む程であつたが近年市区改正と家賃騰貴の爲め山の手の奥に逃込む者が多くなつたので茗荷畑とい名のみ跡には家屋が建てられた爲め茗荷畑底となり近來は新宿管内から早稲田茗荷と稱えて出してゐる。

~~~~~ \* ~~~~~ \* ~~~~~ \* ~~~~~

1900年代、早稲田かいわいにあつたみょうが畑が移転しはじめ、新宿区内の別なところで生産をするようになってゐるが、「早稲田みょうが」のブランドで出荷していることを記者が淡々と描いてゐます。